

令和元年度第2回ゼニガタアザラシ科学委員会

議事概要

令和元年10月16日（水）13：30～16：00

会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム3F

議事1. えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画（第2期）（案）について

○事務局より資料1-1 「管理計画改定のポイント、議論の経緯及び改定スケジュールについて」、資料1-2 「現行管理計画の評価及び管理計画への記載事項整理表」、資料1-3 「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画の評価について」に基づき説明。

◆主な意見等

【中間評価について】

・5カ年の管理目標なり事業の中身について中間評価を行う、それを後半に反映させる、という部分は、もっと上位に書いたほうが良いのではないか。
→そのようにする。書き方については検討させていただきたい。（事務局）

【個体群管理について】

・生息数を80%まで抑えるという目標に対し90%となったのは、幼獣個体が多く繁殖で
きるメスが獲れなかつたために10%増えたという理解でよいか。
→幼獣割合や上陸割合などの新しいパラメータを入れることで当初のシミュレーションと
異なる結果となり、実際にはもう少し獲る必要が生じる結果となった。（事務局）
・幼獣ばかりを獲っていると将来的に個体群が歪な年齢構成にならないか心配だが、そのあ
たりのシミュレーションはこれからということになるのか。
→小林先生に年齢査定をお願いしているところであり、査定結果についてはシミュレーシ
ョンに反映させるようにしている。また、当年の個体は1歳になるまでに死んでしまうケ
ースが多く、元々死ぬものを獲ってしまったという面も大きい。今後は大型の加害個体が
獲れている定置網での捕獲になるべくシフトしていく方針。（事務局）

【防除手法について】

・漁師としては被害が軽減されることが一番の目的。音波忌避装置関係の開発が上手くいっ
てないなら、この5年の期中で格子網の他に何らかの手法を早急に検討してほしい。
→今の時点で具体的な手法導入には至っていないが、最新の知見を取り入れ、被害が減るよ

う技術開発にも取り組んでいきたい。（事務局）

→現状で方法を示すのは難しいが、継続して検討を続けていかなければいけない部分なので、記述を入れていただきたい。音波による忌避効果は地形などの環境条件によって変わってくるので、設置の方法も難しいと言われている。全く駄目と決めつけず、この点を検証できればという気がした。今の音波忌避装置もかなり高周波の音を出していると思うので、高周波音を拾える水中マイクロフォン等を使って一定間隔で測っていけば、音響の分布は調べられるかもしれないが。

→この音波忌避装置を作った会社からの相談で、イルカのクリックスを録音するマイクを使ったらどうかという話をした。そういう機械はある。

→一番効果があるのは非常に高い周波数だと思うが、必然的に指向角は狭くなるので、その音がどこに向いているのかが重要。

→以前イルカ除けの装置を定置に付けてもらったときは、被害はゼロにはならないが私の感触としてはかなり良いと思った。使い方・やり方を工夫したり、音だけでゼロにするのが不可能なら何かと組み合わせるなどすれば、まだ可能性はあると思う。

→重くて設置に人手も必要で、手間がかかるので現場が嫌がる。スピーカーの出る方角が、上、中層だけでなく下まで届くようなものになれば変わるものかもしれないが。

→被害がゼロになるわけでもなく、機械自体が高額な上、設置コストのこともあって、現場の人たちに魅力を感じてもらえてないのではないか。また、設置した数日後にアザラシが網のそばで目撃されるなどしたことで効果がないという印象が強くなっているようだ。

（事務局）

→いろいろ試す中で、二方向にやると必然的にバッテリーが大きくなり、大型化してしまった事情がある。また範囲を広げればさらに大きくなり、使い勝手が悪化する気がする。現場の意見が一番大事だが、協力が得られにくい状況があるので、漁業者・現場の判断も必要。計画期間内でというスパンではなく早めに、より効果的な方法もこれから考えていかなくてはならず、その中である程度整理もしていかなければならない。（事務局）

・音波忌避装置の項の修正案については、記載されている趣旨を生かしつつ、少し書き方を検討していただければと思う。

・前回の協議会でも忌避装置に対する否定的な意見が強かったが、アザラシの学習効果を上手く利用して、同じ網に付けるのではなくてランダムに付けて、どこに付いているかわからないような方法もあるという提案をした。

【その他の被害対策について】

・タコ漁の被害も現実的にはかなり大きいが、具体的な対策が検討されていなかった。タコ

漁の被害防除の方法というはあるのか。タコ釣りのほうへの影響、被害が非常に大きいので、これも並行して5ヵ年内には研究に着手してほしい。

→被害が多くなったら漁法自体を本当は見直ししなきやならないが、一方で被害情報の収集、整理のところで「被害防除の手法について検討を行っていく」とあるが、このままで検討、検討で終わってしまうので、一步踏み込んで「具体的に被害防除の手法の開発にも取り組む」旨書いていただきたい。

- ・これから1ヶ月位が、浅場でのタコ漁でアザラシの被害が出る時期だが、昨年は浅場で特にタコが獲れておらず、調査が進んでいないため被害状況が不明。(事務局)

【参考資料について】

- ・1について、えりもが地域個体群だということ遺伝学的に示されているので、「生態」のところに明記すべき。
- ・「生態モニタリング調査」は、この第一期の計画の内容を全部含めるという意味か、年度ごとに分けて載せるのか。次の管理計画を立てるための資料という意味合いなので、単年度というよりは判っているものを網羅して記載をするほうが良い。
- ・この参考資料を通常の参考資料と考えるか、えりも地域のゼニガタアザラシ個体群のステータスリポートとして考えるかで大きく変わってくる。
- ・本来はステータスリポート。それを元にして管理計画ができるということ。2から4は殊更に分ける必要はなく、えりも個体群の行動生態、特に被害に繋がるような知見などこれまでに明らかになったことを判りやすく整理するのが良い。
- ・数量解析と個体数推定は管理計画に直結する話で、この科学委員会として作業グループを作って検討してきたことなので、科学委員会の名前で載せておく。
- ・被害意識調査は、個別の項目についての近似答や分布、まとまりを整理したものなので、まとめて整理するのは難しい。また母数が全部取られておらず、さらに今春の場合にはデータの総数が昨秋のものとずれている関係があるので、そのまま載せるのはどうなのかなと思っている。(事務局)

→次の5年間では、何が判っていて何が判っていないのかがわかるようなステータスリポートを目指して情報を整理していくという作業が、この管理計画の中にはほしい。

→「えりも地域ゼニガタアザラシの生態」ということでまとめる場合、生態モニタリングで判ったことで一つのパートにして、次に、その個体数管理をやる元となった北海道全体の成獣の数とえりもの個体数管理というように、私たちが何のデータをもとに、どのような判断をしているかという項目で分ければ良い。

- ・誰にでもわかる説明が必要だと思うので、当面、経過に対しては、できる範囲のところで

更新していただき、最終的にはもう少しまとまつたもので出したい。法定計画のパブコメは本文だけで、参考資料は入らないのでは。

→参考資料の取扱いについては整理したい(事務局)。

【その他：今年度の事業速報について】

・今後の方針として、定置の間は捕獲を試みると思うが、その後、80個体という目標に対して、何か行う予定があるのか。それとも持ち越すのか。

→80個体という数字にこだわらず、最大限なるべく定置で獲る。残りを刺し網で獲るというのではなく、大型で定置に執着する個体を中心に獲れるだけ獲ろうというのが基本的な方針。(事務局)

・今後、もう少しサケが来るようになった段階で、岩礁域のところが一番被害が多いとなれば、そういう個体ができるだけ獲れるような方向で柔軟に。とにかく定置網に執着している個体ができるだけたくさん獲ることが重要。

議事2. その他

○事務局より、今後のスケジュールとして、保護管理協議会については11月5日にえりも町内で開催し、その中で管理計画案の承認を受けたいと考えている旨を説明。